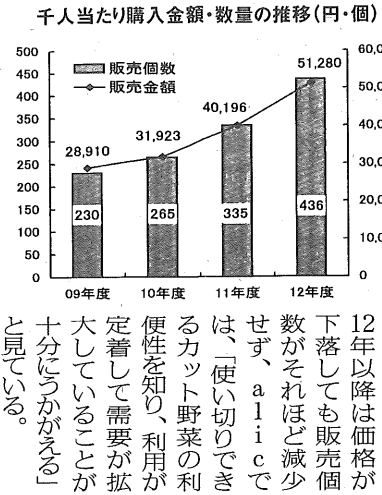


市場規模605億円

農畜産業振興機構 簡便志向で需要広がる

農畜産業振興機構（a i c）の調査によると、P O Sターマをもとにしたカ ット野菜の市場規模が20 12年度で推計約605億 円になることがわかった。 これまでは、生鮮野菜の価 格高騰時の代替品として販 売が伸びているとされ、11 年くらいまでその動向が当 てはまっていたが、



12年以降は価格が下落しても販売個数がそれほど減少せず、a i cでは、「使い切りでき るカット野菜の利 便性を知り、利用が 定着して需要が拡 大していることが 十分にうかがえる」と見ている。

調査は、野菜の需給安定 の取組みに当たったの資料 とすることを目的に実施。 09年度〜12年度にかけてス ーパ（13年3月時点で1 56チェーン、約683店 舗）のP O Sターマを収集 し、野菜売場や惣菜売場で 販売されるカット野菜の販 売量、販売金額などを調査 した。2分の1、4分の1 カットなど単価低減などの ためのカット野菜はのぞい ている。

カット野菜のアイテム数 は、500アイテム前後で 推移していたが、東日本大 震災の影響で11年4月に大 きく減少。同年12月からは 震災前の水準を上回って増 加を続け、13年3月には7 00アイテムの水準に達し た。メーカー数も11年4月 に若干減少した後、300 社を切る水準で推移してい たが、同年12月以降増加傾 向となり、13年3月には4 31社となっている。

千人当たりの販売金額・ 個数とも、全体では毎年度 増加しており、12年度は5 万1280円、436個、 前年度に比べ28%、30%増 加した。内訳はサラタが3 万2683円、241個、 調理用・その他が1万85 97円、195個で、サラ タのほうが多くなってい る。しかし、前年度に比べ サラタでは金額・数量とも に2割の増加に対し、調理 用・その他ではともに4割 の増加となり、ニースの高 まりがうかがえる。

千人当たりの販売金額の 品目別比率は、12年度でミ ックス野菜が33%を占めて 一番高く、キャベツ22%、 レタス9%、ミズナ8%が 続いた。 主な品目別に動向を見る と、キャベツの千人当たり 販売金額・個数は11年度ま でなかなか増加だった が、12年度に急伸。12年度 の金額は1万1078円と なり、前年度に比べ72%増 加、09年度比は139%増 となった。金額の内訳は刻

みキャベツなどの「その他」 が8割を占め、サラタが2 割、炒め用が2%となった。 レタスの千人当たり販売 金額・個数は毎年度増加傾 向。金額は4752円で、 前年度比26%増。金額の6 割をサラタが占めている。 ミズナは千人当たり販売 金額・個数とも09年度、10年 度とほぼ横ばいで、11 年度に大きく増加。12年度 は3978円で、前年度比 25%増。全量がサラタとな っている。